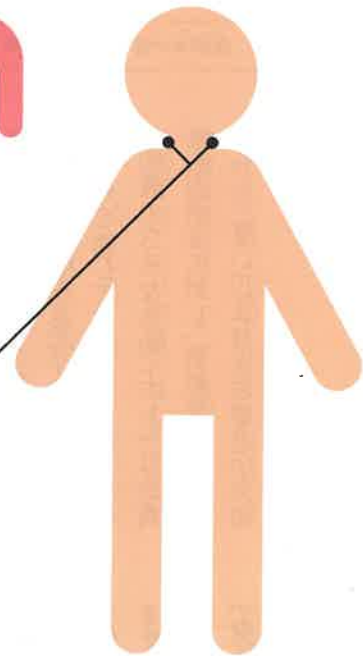


# 臓器のはなし



## 今月は 頸動脈

### 脳へ血液を送る重要な血管 エコー検査でチェック

聴診で聴こえる雑音は  
動脈硬化のサイン

心臓の大動脈から脳などに血液を送る重要な血管が頸動脈です。

頸動脈の血管壁に余分な脂質が溜まると瘤(ブランク)が作られ、血管の内腔を狭め、弾力性を低下させる動脈硬化を起こします。そのブランクが破裂すると血栓(血の塊)が

作られ、血流に乗って脳に飛んだとき、脳の血管を詰まらせ、脳梗塞を起こします。つまり、動脈硬化を悪化させずに頸動脈がスムーズに通じていることは、脳の血流を維持する上で、非常に重要なのです。

我々ドクターは聴診の際、頸動脈の音も聴いています。前述のような脂質異常症等の疾患、加齢によって動脈硬化が進行していると雑音が聴こえます。

雑音の原因を探る手段が、頸動脈エコー検査。頸動脈は首の近くに位置するため、超音波で血管の状態を観察したり、頸動脈の血管壁の厚さを測定するのに有効です。

危険因子を持っているか  
メタボ健診で調べよう

頸動脈エコー検査は、X線を使用するCT検査と違って被ばく量の心配がありません。磁力を利用して血管の全体像を捉えるMRA検査もありますが、皮膚の上から器具をあてるだけのエコー検査の方が、手軽に受けることができるでしょう。

人間ドックのオプションで付けられるようなら、動脈硬化の不安がある

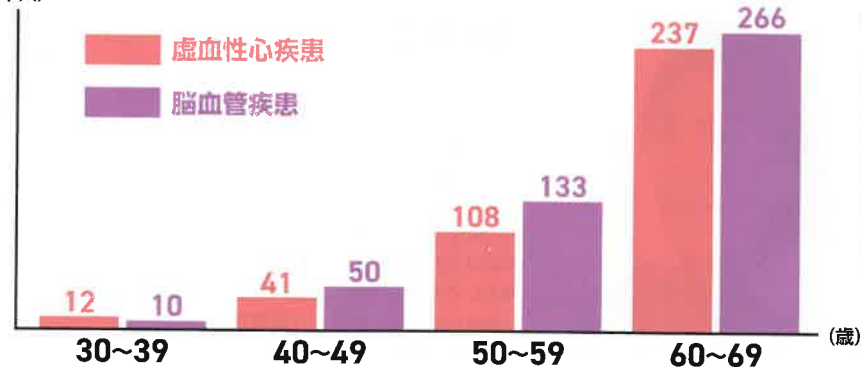
方は受けることをおすすめします。ただし、エコー検査も完璧ではありません。プローブという超音波を発する機械がうまくあたらないと、モニターの画像がきれいに見えないのです。ベテランの技師や動脈硬化専門の先生が担当しても、病変部の正確な判断が難しいケースもあります。

動脈硬化の兆しがあれば、スタチンなどの脂質異常症治療薬を服用する流れに。悪玉コレステロール等を下げて動脈硬化を抑制するために治療します。また、ブランクが血管壁から剥がれて血栓を作り、脳の細い血管に詰まることが問題なので、ブランクが剥がれないよう安定化させる作用もあるといわれています。

血栓や血管の狭窄が見つかった場合は、血栓を除去したり、狭くなった血管を広げる脳血管治療へ。現代では以前より安全に治療できますが、リスクがゼロとは言いきれません。それに、治療中に血流に乗った血栓が流れて血管を詰まらせるケースもあるのです。

動脈硬化の危険因子Ⅱ脂質異常症、糖尿病、高血圧、高尿酸血症を特定健診(メタボ健診)で調べましょう。

(千人)



年代別「虚血性心疾患」・「脳血管疾患」の患者数

監修

浅海 直

あざうみ すなお  
(医療法人社団 平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。

出典：厚生労働省「患者調査」(令和2年)